



令和3年1月28日

【照会先】

三重労働局 労働基準部 健康安全課
健康安全課長 藤川敏行
課長補佐 小西 勲
(電話) 059 - 226 - 2107

報道関係者 各位

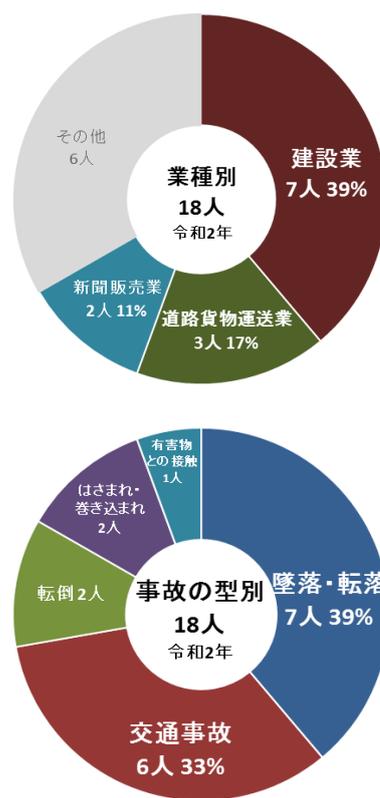
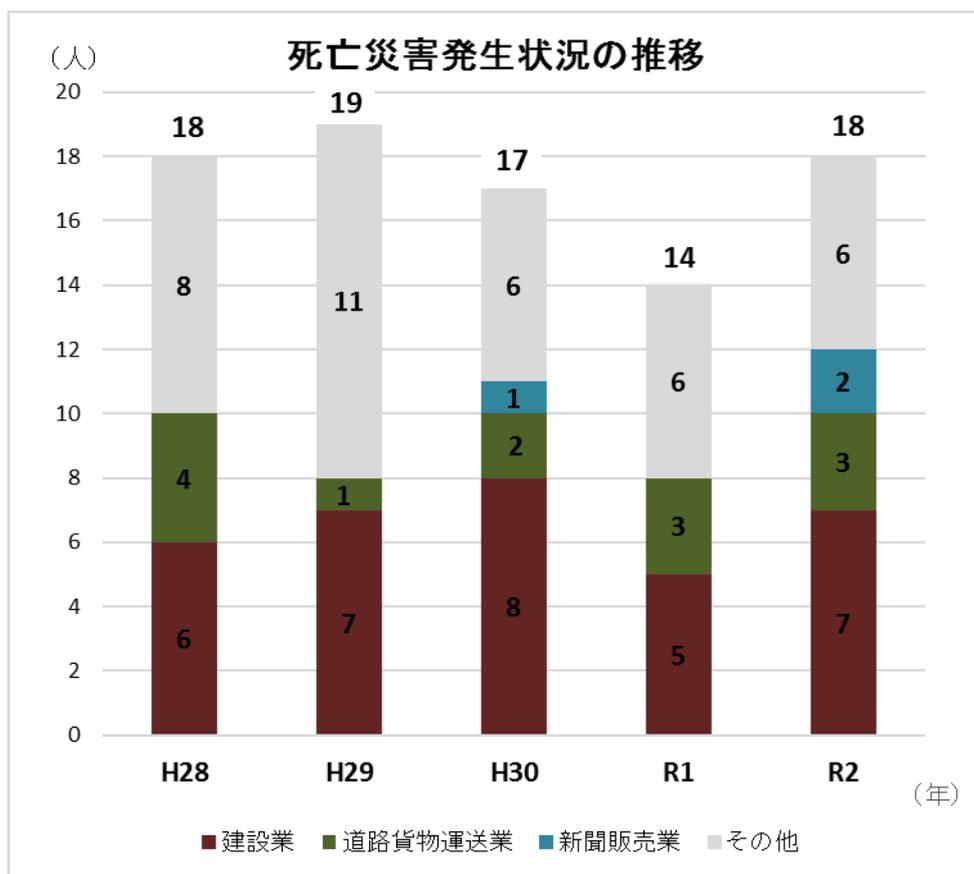
三重県下で18人が死亡（前年比4人増）

～令和2年の労働災害（速報値）～

三重県内における令和2年の労働災害による死亡者数は、18人（前年比4人増）であった。令和元年には死亡者数が過去最少となったものの、令和2年には増加に転じた。

業種では、建設業が7人、道路貨物運送業が3人、事故の型では、墜落・転落が7人、交通事故が6人とその多くを占めている。また、60歳以上の高年齢労働者が8人（前年比3人増）を占めている。

三重労働局（局長 西田和史）では、死亡災害の撲滅を目指し、「死亡災害ゼロ・アンダー2,000みえ推進運動」（別添）を推進してまいります。



死亡災害発生状況

NO.	発生日	業種	被災者		発生状況
			職種	年齢(年代)	
1	1月	その他の建設業	検査工	50代	被災者は、ダクト工事のために訪れた工場において、設置された作業ステージ上で下見作業をしていたが、ステージの柵を乗り越えL型鋼に掛け渡されていた石膏ボードに乗ったところ、石膏ボードが割れ、約4m下の地上に墜落した。
2	1月	警備業	警備員	70代	被災者ら3人は、建設工事現場の警備業務終了後、帰社するため軽自動車に乗り合わせ、国道を走行中、乗車していた軽自動車がガードレールに激突し、運転手及び助手席の二人が負傷し、後部座席に乗っていた被災者が死亡した。
3	3月	一般貨物自動車運送業	運転手	50代	被災者は、市道において、トラックを運転していたところ、路肩に停車していた乗用車の右側面に接触した後に市道の左側に流れ、電柱に衝突し、死亡した。
4	3月	その他の建設業	とび工	10代	被災者は、水管橋歩廊上にて足場解体後の資材を一輪車にて運搬作業中、前方で別の二輪車を押していた作業者が停止していたため、追いつそうと歩廊の手すりを乗り越えて、歩廊外にある水管橋の横桁を移動しようとしたところ、バランスを崩し、約13m下の地上に墜落した。
5	3月	新聞販売業	配達員	60代	被災者は、バイクを運転し、新聞を配達していたところ、信号機のない交差点において、軽自動車と出会い頭に衝突し、死亡した。
6	4月	旅館業	作業員	50代	被災者は、休憩室内の通路で転倒し、後頭部を強打した。
7	5月	その他の建設業	機械修理工	60代	被災者は、製氷設備の修理作業中、貯氷庫のゲートが開いたままで停止した原因を調べるために、ゲート付近に溜まっていた氷を竹棒でたたいて除去していたところ、ゲートが動き、柱との間に挟まれた。
8	5月	その他の建設業	管理者	40代	被災者は、窒素パージされていたタンクの上部のマンホールを開放し、縄梯子を使用して、タンク内に入曹した直後、仰向けに倒れた。
9	6月	一般貨物自動車運送業	運転手	60代	被災者はトラックを運転し、高速道路を走行中、トンネル内で、反対車線を走行していた大型トレーラーと衝突した。
10	7月	新聞販売業	配達員	50代	被災者は、バイクを運転し、集金業務をしていたところ、左カーブで転倒し、反対車線に飛び出し、走行してきた乗用車に轢かれた。
11	8月	一般貨物自動車運送業	運転手	60代	被災者は粉粒体運搬車のタンクに飼料を投入する作業中、高さ2.8mのタンク上部からコンクリート地面に墜落した。
12	8月	産業廃棄物処理業	作業員	60代	被災者は、破砕機の横に設置した高さ3.5mの足場上から、パレットに積み上げられた木製板を破砕機に投入していたところ、破砕機の中に転落した。
13	9月	機械修理業	機械修理工	50代	被災者は、ラッチアームバケットの点検作業中、高さ6メートルのバケット上から墜落した。
14	9月	タクシー業	運転手	60代	被災者は、タクシーの給油のためガソリンスタンドに立ち寄った際、停車しようとしたが、急加速し、国道側道のコンクリート壁に衝突した。
15	10月	その他の土木工事業	型枠大工	60代	被災者は、床上操作式クレーンを用いて、倉庫1階から2階に型枠を片付ける作業中、2階床面にある開口部から3.67メートル下の1階床面に墜落した。
16	11月	その他の建設業	作業員	50代	被災者は、トラックの運転席の上部において、屋根材の荷上げ作業をしていたところ、1.9メートル下の地上に墜落した。
17	12月	卸売業	作業員	50代	被災者は、植木畑において、車両系建設機械を用いて、植木を吊り下げて走行していたところ、車両系建設機械が横転し、運転席から投げ出された。
18	12月	橋梁建設工事業	作業員	20代	被災者は、パイルオーガに部品を取り付けていたところ、運転者がパイルオーガのチャック部分を回転させたため、被災者の頭部がパイルオーガのチャック部分とシリンダー部の間に挟まれた。